

(別記)

令和8年度池田町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、北安曇郡の南部に位置し、高瀬川左岸に広がる肥沃な平坦地と東山の山間地からなる。平坦地の水田地帯は70%近くが基盤整備済となっており、主食用米を中心とした土地利用型農業が営まれている。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の需要に応じた作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

地域の課題としては、担い手農家の高齢化が深刻で、池田町農業の体質強化を図るためには、集落営農組織（法人化）の整備と後継者育成や新規就農者の確保が急務となっている。

そのほか、転作作物の連作ほ場では、難防除雑草の増加や石の浮上、収量・品質の低下が発生している。また、水稻生産が主体であり、年々、農業所得が減少しているため高収益作物の導入による複合化を推進する必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

池田町は花とハーブの里づくりを目標とした町づくりを進めてきたが、それ以外にも「夕顔（内鎌かんぴょう）」等古くから伝承栽培されている町ブランド品目が複数ある。さらに、年間降水量が少ないため高品質なぶどうの生産が見込まれることから、醸造用ぶどうの産地としての生産拡大を進め、令和2年には池田町初のワイナリーも建設された。

これを活かし、地域で需要の有る「JA等推奨品目」の他、夕顔（内鎌かんぴょう）等の「町ブランド品目」、ハーブやぶどう等の「町特産品目」の導入に重点的に取り組む。

また、圃場整備により、高収益作物の作付を目的とする園芸団地を設ける予定で、そのひとつに生食用ぶどうの導入も予定しており、今後は醸造用・生食用の分けなく「ぶどう」の産地として生産拡大する見込みである。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

池田町では、5つの集落営農組織が統合され、平成29年11月に2つの農事組合法人として設立された。しかし、高齢化により農業従事者が減少し、受け皿となる担い手確保のため農事組合法人の設立を推進しているが、水田や畑等を含めた農地全体をカバーはできておらず、いまだ農地の利用権設定に苦慮している。

このため、地域計画に基づいた意欲ある農業者や法人等への農地を集積し、生産コスト削減や大規模農業化による経営規模の拡大を図っていく。

また、高収益作物の導入や、環境保全型農業など高付加価値化農業の推進を行い、農業所得の向上に努める。この中で、ブロックローテーションや畑地化支援の活用が可能な圃場か検討を行い、可能であれば関係者と協議し畑地化等を進める。

水田台帳または現地確認による水田の点検を行い、畑作物の産地定着に努める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に即応した米づくりを推進するため、生産数量目安値の100%活用と地域間調整に積極的に取り組む。

(2) 備蓄米

取組無し

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた生産数量を確保するとともに安定し供給を続ける必要があることから、国からの産地交付金を活用した低コスト生産や生産性向上の取組を推進する。

イ 米粉用米

取組無し

ウ 新市場開拓用米

主食用米の需要減が見込まれる中、海外から需要がある国産米の低コスト生産の取り組みにより所得率向上と需要に応じた生産数量の確保を図る。

エ WCS 用稲

取組無し

オ 加工用米

産地交付金を活用し、低コスト生産の取り組みにより所得率向上と需要に応じた生産数量の確保を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

農業農村支援センターやＪＡと連携して、生産安定技術導入に取り組む。また、大豆については、豆腐の加工適性に優れた「すずほまれ」の更なる作付拡大を推進する。

大豆・麦については、明渠、土壌改良、耕耘同時畝立播種、汎用収穫機の利用技術の導入と難防除雑草対策により生産性の向上と低コスト化を図る。

(5) そば、なたね

実需者の需要の掘り起こしと、実需者の求める品質の良いそばの生産を推進する。

そばについては、明渠、土壌改良、耕耘同時畝立播種、汎用収穫機の利用技術の導入など、農業農村支援センターやＪＡと連携して生産安定技術導入に取り組み、生産性の向上と低コスト化を図る。

(6) 地力増進作物

麦、大豆、ＪＡ等推奨品目、地産地消品目等の取組及び環境保全型農業の取組を拡大するため、国からの産地交付金を活用した地力増進作物による土づくりを支援する。

なお、対象とする地力増進作物は「長野県における持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」に基づき、ソルゴー、麦(小麦、大麦、ライ麦、えん麦)、イタリアンライグラス、セスバニア、ギニアグラス、ペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラス、グリーンミレット、ヘアリーベッチ、レンゲ、クローバー、クロタラリア、マリーゴールドとする。

(7) 高収益作物

ア 野菜

実需に合った流通が可能となる J A 等推奨野菜を作付け拡大し、地域振興作物として振興していく。また、近年種苗メーカーから野菜の国内産種子の需要が高まっていることから、町として野菜の品目の一つに採種を加える。

イ 池田町ブランド品目

池田町で古くから伝承栽培されている「桜仙峡小豆」や「夕顔・・・内鎌かんぴょう」の保全と栽培規模拡大を目指し地域の活性化と農業所得の拡大を図る。また新に西洋わさび・にんにくの作付けを拡大し池田町産わさび・にんにくのブランド化を目指す。

ウ 特産品（ハーブ、ブドウ）

花とハーブの里づくりのコンセプトの再構築を目指す一貫としてフレッシュハーブ・薬用等へのハーブ栽培の作付け拡大推進を図る。

ブドウの栽培に適していることを活かし、ワイン用ぶどう並びに生食用ぶどうの生産面積の拡大を図り産地化を進める。

エ 地産地消作物

生産が安定しない直売所等の地産地消作物等について、生産面積の拡大を推進することで、生産量増加と水稻から高収益作物への作付け転換を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり